

(様式 1) 実施報告書-プログラムB

団体名	蒲郡市
-----	-----

1. 事業の種別	
該当の チェック	種別
	(1) 子ども向け日本語教育事業（対象外：プレクラス、日本語初期指導教室）
	(2) 多文化子育てサロン事業
	(3) 初期日本語教育事業（対象外：子ども向け日本語初期指導教室）
	(4) 地域の実態調査
	(5) 地域日本語教育の推進計画策定又は改訂
○	(6) その他
2. 事業の期間	令和2年9月～令和3年2月
3. 事業実施前の現状と課題	
<p>蒲郡市では、直近5年間で市内に暮らす外国人住民の方が1.5倍に増加しています。加えて、多国籍化も進んでおり、外国人住民と共生していくために新たなサポートを考える必要がありました。</p> <p>当市では、蒲郡国際交流協会多文化共生部会のボランティアによる日本語教室（以下「日本語教室」という）で、外国人住民に対する日本語学習の機会を提供してきました。しかし、近年の外国人住民の増加、それに伴う学習者の増加により、市内3か所にある日本語教室では、既存の学習者以上の学習希望者を受け入れることが困難となってきており、新たな学習機会の提供を模索していました。</p>	
4. 事業の目的	
<p>市内で日本語学習ができる新たな場所を提供します。また、学習者の日本語レベルに応じた教室を開催できるよう日本語教室との差別化を図り、外国人住民に対する日本語学習の選択肢を増やすため、全市型日本語教室を開催します。</p>	
5. 実施結果	
事業の詳細（種別(4)(5)(6)）	
<p>【種別及び事業名称】（6）全市型日本語教室</p> <p>【実施箇所数】17回（1回150分）</p> <p>【実施時間数】計42.5時間</p> <p>【具体的な実施内容】</p> <p>初回に、参加者のレベルチェックとして日本語を書く力、話す力の確認を行いました。学習者の日本語レベルでは中級程度でしたが確認したレベルをもとに、授業アプローチを修正しました。授業の中では、仕事で使える敬語をメインに会話練習を繰り返したのに加え、漢字を書く練習も行いました。また、授業の最終回には、自分の国の紹介スピーチを実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの蔓延に伴う緊急事態宣言の延長により、実施できていない。</p>	

6. 効果

(1) 効果

① 定量評価

- ・実施した日本語教育人材に対する研修：(ー) 回 (箇所) 当年度 () 回 (箇所)
- ・実施した日本語教室：前年度 (ー) 回 (箇所) 当年度 (17) 回 (1 箇所)

② 定性評価

(i) 連携機関の広がりについて

参加者募集の際に、蒲郡国際交流協会と連携し開催の周知を行いました。また、教室運営に関わるボランティアを、既存の国際交流協会ボランティアの協力により、まかなうことができました。

(ii) 新たな連携機関と連携した内容

蒲郡国際交流協会 Facebook に掲載するとともに、協会の団体会員にチラシを発送しました。今までにない方法で広報したため、多くの外国人住民にアプローチができた。

(iii) どのような体制を構築できたか

実際に、全市型教室に通ってみて学習の日本語レベルと授業内容が合っていなかった場合、日本語教室によるマンツーマン学習を紹介しました。また、反対に更なるレベルアップを希望される既存の日本語教室学習者に、全市型日本語教室を勧めるなど、学習者のレベルに応じた教室に通えるよう連絡を取り合いました。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

市ホームページ、蒲郡国際交流協会 Facebook、国際交流協会会員へのチラシ発送とともに、地元の外国人住民が経営する店舗などにチラシを配布し、実際にお店に来る外国人に対して、周知を依頼しました。また店主の Facebook にチラシを掲載してもらうことで、外国人コミュニティに効率的にアプローチすることができました。

7. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

蒲郡国際交流協会の日本語教室スタッフと参加者の様子を共有しました。その中で、今回の全市型日本語教室に参加できそうな日本語レベルの人を紹介いただいたり、反対に日本語教室に参加を促したりしました。お互いのやり取りの中で、参加者にとってどの環境で勉強するのが最も日本語習得に近いのかを検討しました。

(2) 今後の展望

学習のレベルが難しすぎるといった理由で、途中で参加者の何人かは学習に参加することを止めてしまいました。学習者の反応を今まで以上に注視しながら、理解が難しいであろう単元については反復して学習を進めるなど工夫が必要だと感じました。

また、今年度は新型コロナウイルスの蔓延により、課外に出て学習を行うなど難しい状況ではあったので、座学だけでなくフィールドワークのような形で進めてもよいと感じました。

次年度も、同事業を継続して実施していく予定ですが、市内には会話中止に学習できるクラスがないため、全く日本語が分からない外国人住民向けに初級の会話クラスも実施します。